

2025年度 第31回FD・SDフォーラム



—我々は教え、学び、働いていくのか—

2040年の 京都の大学

2026 対面

2.28 SAT-3.1 SUN

会場 同志社大学 今出川キャンパス 良心館

申込期間

先行申込期間(大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学限定)

一般受付(すべての大学・短期大学)

1.9(金) 10:00~1.15(木) 17:00 / 1.16(金) 10:00~2.4(水) 17:00

主催:  公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

後援: 文部科学省・京都府・京都市

2040年の京都の大学

ー我々はどう教え、学び、働いていくのかー

今年度の「FD・SDフォーラム」は、未来の京都を見据え「2040年の京都の大学」をメインテーマとしています。

京都府・京都市は、伝統と先端技術が融合する「文化」「学術」「創造」を柱に、世界とつながる都市への進化を目指しています。中でも「大学のまち・京都」は、各大学の学術機能を強化し、留学生5万人構想のもと知的国際交流都市を形成しようとしています。一方で、少子化による学生数の減少や、国際化、高度人材育成、多様化・柔軟化する学修体制、地域貢献の重視など、大学を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした状況を踏まえ、本フォーラムでは昨年度に引き続きSD要素を強化し、「人口減少・国際化・多様化・地域連携」をキーワードに、日本の大学が未来にわたり継続・発展していくための制度改革や社会の要請への対応について考える場を提供します。

シンポジウム、分科会、ポスターセッションなどを通じて、参加者の積極的な議論と意見交換を期待しています。

第31回FD・SDフォーラム企画検討委員会 委員長

市川 寛 (同志社大学 生命医科学部 教授)

スケジュール

2.28(土)

10:00~12:30	第1分科会	大学における教育評価の在り方再考～新学習指導要領導入後の教育評価～	P.2
	第2分科会	新たな学びを育むために～教職協働によるカリキュラムの構築と再編～	P.2
	第3分科会	大学危機の時代を生き抜く組織づくり～組織効力感の醸成～	P.2
	第4分科会	大学の授業における「所属感・居場所」づくり	P.2
12:30~14:15	ポスターセッション ※コアタイム 13:00~14:00		
14:30~17:00	第5分科会	つなぐ広報、ひらく大学～教職協働で育む大学の魅力と未来～	P.3
	第6分科会	EdTechで推進する個別化教育	P.3
	第7分科会	京都地区における大学の防災対策	P.3
	第8分科会	産学連携の新たな可能性	P.3
17:30~19:00	情報交換会		

3.1(日)

10:00~12:40	シンポジウム	AI時代／少子化社会における大学(教育)のあり方を問う	P.4
14:00~16:30	第9分科会	大学におけるアセスメントテスト(ジェネリックスキル測定テスト)の活用事例	P.5
	第10分科会	大学職員の高度化と流動性(職員の人材育成)	P.5
	第11分科会	高大連携をどう設計し、学生募集・入試・入学前／初年次教育等につなぐか ～連携・接続・移行の今とこれから～	P.5
	第12分科会	多様性配慮と障害学生支援	P.5

■ ポスターセッションでは、大学コンソーシアム京都加盟校の教職員・学生が実施する特色ある教育に関する取り組みならびにSDに関する取り組み事例を発表します。

■ 情報収集や、参加者間の交流の場としてご活用ください。

第31回FD・SDフォーラム企画検討委員会

委員長

副委員長

市川 寛
 市川 寛
 市川 寛
 市川 寛
 市川 寛
 市川 寛
 市川 寛
 市川 寛
 市川 寛
 市川 寛

同志社大学 生命医科学部 教授
 京都外国語大学 外国語学部 准教授
 京都文教大学 臨床心理学部 准教授
 京都文教大学 入学センター 高大連携オフィス 課長補佐
 京都薬科大学 薬学部 講師
 佛教大学 教育学部 准教授
 京都先端科学大学 人文学部 准教授
 立命館大学 生命科学部 教授

小正 浩徳
 佐藤 賢一
 多田 泰紘
 野村 実
 前川 雄太
 南 了太
 山本 康友

龍谷大学 心理学部 准教授
 京都産業大学 生命科学部 教授
 京都橘大学 経営学部 准教授
 大谷大学 社会学部 講師
 京都女子大学 大学運営本部 大学改革推進室 室長
 京都精華大学 国際文化学部 准教授
 同志社女子大学 薬学部 教授

第1分科会

定員 160名
(加盟校優先定員:100名)

講義形式

大学における教育評価の在り方再考
～新学習指導要領導入後の教育評価～

2022年度から高等学校で年次進行で実施されている学習指導要領では、育成を目指す資質・能力の三つの柱(「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」)に沿って各教科の目標と内容を再整理し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図る、指導と評価の一体化を目指している。それに伴い様々な評価方法が導入され、25年度より入学した大学生もそうした評価方法に馴染んでいると思われる。高大接続改革の必要性が声高に叫ばれる今、大学教員は旧態依然の授業や「知識及び技能」のみを重視した評価方法を実施してよいのか。今後の大学の教育評価はいかにあるべきか、その課題と方法を検討したい。

コーディネーター

岩崎 大輔 氏 京都薬科大学 薬学部 講師

報告者

松下 佳代 氏 京都大学 大学院教育学研究科 教授

山下 一夫 氏 慶応義塾大学 理工学部 教授

高橋 昌由 氏 大阪成蹊大学 教育学部 准教授

第2分科会

定員 160名
(加盟校優先定員:100名)

講義形式

新たな学びを育むために
～教職協働によるカリキュラムの構築と再編～

18歳人口の減少やVUCA社会の到来に対し、教職員は一丸となって教育目標や中長期計画にもとづくカリキュラムの構築と再編に取り組んでいる。特に共通教育、教養教育の改革や自校の長所を生かした特色ある教育プログラムの展開が盛んに行われている。本分科会では、その取り組みや成果について登壇者にご講演いただくとともに、参加者と情報を共有し、議論する。特に、取り組みの背景にある問題意識や実践のプロセス、現場での教職協働による課題解決にも焦点をあて、参加者が自大学での実践につなげられる視点を得られることを目指す。

コーディネーター

多田 泰紘 氏 京都橘大学 経営学部 准教授

報告者

菊池 誠 氏 神戸大学 教養教育 院長/システム情報学研究科 教授

西野 毅朗 氏 京都橘大学 経営学部 准教授

君島 菜菜 氏 大正大学 教務部長/学修支援センター 特命准教授

第3分科会

定員 160名
(加盟校優先定員:100名)

講義形式

大学危機の時代を生き抜く組織づくり
～組織効力感の醸成～

急速な人口減を背景に、募集停止や廃止が相次ぐ大学危機の時代が現実のものとなった。今後さらに厳しさを増していくことが確実な将来を前に、多くの大学において、一人ひとりの構成員は、このままの組織ではいけないと不安を募らせつつも、しかしどうすればいいのか、試行錯誤、苦闘していると思われる。組織の変革・活性化には、構成員が「自分たちならできる、やれる」という感覚=組織効力感を持つことが重要である。本分科会では、組織効力感の理論的背景と具体的な事例を交えた実践的アプローチ(理論と実践の架橋)を共有し、危機の時代を生き抜くための組織づくりを考える。

コーディネーター

前川 雄太 氏 京都女子大学 大学改革推進室 室長

報告者

坂井 風太 氏 株式会社 Momentor 代表取締役

第4分科会

定員 30名
(加盟校優先定員:18名)

ワークショップ形式

大学の授業における「所属感・居場所」づくり

本ワークショップの大きな目的は、学生の中退予防について考えたい、というものである。とはいえ、中退を防ぐにはどうすればよいか、というよりも、学生が自ら大学に来たい、講義や課外活動に続けて参加したい、そう思ってもらえるような大学としての工夫に着目したいと思う。そこでキーワードとして「所属感・居場所」を考えてみた。当日は、このキーワードから、報告者より日々の取り組みの紹介などをしていただく。それをもとに参加者皆さん同士のグループワークを行い、大学における「所属感・居場所」を学生が感じられるにはどうしたらよいかを、共にアイデアを出し合ってみようと思う。

コーディネーター

小正 浩徳 氏 龍谷大学 心理学部 准教授

報告者

土居 洋平 氏 跡見学園女子大学 観光コミュニケーション学部 教授

中尾 覚 氏 龍谷大学 心理学部 教務課 職員

大学コンソーシアム京都加盟校の教職員・学生が実施する、特徴的な教育ならびにSDに関する取り組みを発表します。ぜひ、皆様にご覧いただきご質問等いただけると幸いです。



第5分科会

定員 160名
(加盟校優先定員:100名)

講義形式

つなぐ広報、ひらく大学
～教職協働で育む大学の魅力と未来～

本分科会では、大学広報の多様なあり方と可能性を共有する。京都芸術大学・立命館大学・大阪大学の広報担当者が登壇し、大学公式サイトやSNS、YouTubeチャンネル、パンフレットなど多様なチャンネルを通じた広報活動を紹介する。教員の研究成果や学生生活の実際、クラブや団体の活躍、新設備や施設の紹介といった事例に加え、ブランディングや入試広報との関わりなどについても紹介される。また、教員と職員が協働しながら受験生・在学生・卒業生・地域社会といった幅広いステークホルダーに大学の魅力を伝える多様な実践が紹介される。パネルディスカッションを通じて、教職協働で育む大学広報の現在と未来を展望する機会としたい。

コーディネーター

木村 修平氏 立命館大学 生命科学部 教授

報告者

木原 考晃氏 京都芸術大学 広報課 課長

勝屋 藍太氏 立命館大学 広報課 課長

岡 堅太氏 大阪大学 広報・ブランド戦略本部 副本部長／
クリエイティブユニット 准教授

第6分科会

定員 160名
(加盟校優先定員:100名)

講義形式

EdTech で推進する個別化教育

AIを始めとする科学技術の進化、急速な少子高齢化の進行など、大きく変動する日本社会において、学修者一人一人の可能性を最大限伸ばす教育が求められている。教育 (Education) × 科学技術 (Technology) がEdTechであり、学生一人一人の特性に合った教育を、「きめ細かく」かつ「深く」提供できる可能性を秘めている。本分科会では、教育産業界および大学から講師を迎え、AI等のTechnologyが個々の学生の可能性をどのように伸ばすことが出来るのか、具体例をご紹介いただくと共に、参加者間の意見交換を通じて、今後の「個別化教育」について考える契機としたい。

コーディネーター

山本 康友氏 同志社女子大学 薬学部 教授

報告者

小城 擁二氏 atama plus 株式会社
大学・予備校支援事業部 高大接続チームオーナー

新井 昌明氏 立命館大学 入学センター 入学課 課長

柏木 崇氏 株式会社ベネッセコーポレーション
VIEW next編集部 統括責任者宿久 洋氏 同志社大学 同志社データサイエンス・AI教育プログラム
運営委員会 委員長／文化情報学部 教授

第7分科会

定員 160名
(加盟校優先定員:100名)

講義形式

京都地区における大学の防災対策

近年京都地区では、幸いにして大規模な地震災害をあまり身近に経験していない。一方で、東日本震災時の例を見ても、災害発生時には大学キャンパスが地域住民や観光客等一時訪問者の避難場所となることが多く、教職の別なく対応が求められる。特に京都は外国人観光客が多いという特殊性があり、より大きな混乱が予想される。大規模災害発生時に大学として必要になると予想される対応、それに向けて準備しておくことなど、専門家の方にお話を伺う。

コーディネーター

足田 浩一氏 京都外国語大学 外国語学部 准教授

報告者

丹波 史紀氏 立命館大学
産業社会学部 教授／災害危機レジリエンス研究センター長

山本克彦氏 日本福祉大学 福祉経営学部 教授

第8分科会

定員 30名
(加盟校優先定員:18名)

ワークショップ形式

産学連携の新たな可能性

本分科会では、大学と多様なアクターとの連携について、地域連携活動の事例をもとに論点整理を図りながら、産学連携の新たな可能性について考えていく。特に、全国でさまざまなPBL型授業が展開される中で、自治体や企業等とどのように手を携えながら企画・運営を行っていくべきか、大学以外の外部アクターの視点を交えながら議論する。具体的には、大学連携に主体的かつ積極的に関わっているNPO、高校、民間企業という三者から話題提供をいただき、ワークショップ形式で大学が(に)できること／できないこと、外部アクターとの連携の余地とイノベーションの可能性について考えていく。

コーディネーター

野村 実氏 大谷大学 社会学部 講師

報告者

小林 敬志氏 特定非営利活動法人 SET 交流部 副部長

勝山 鉄矢氏 京都府立丹後緑風高校網野学舎 教諭

八島 潤子氏 株式会社コギト デザイナー・イラストレーター

AI時代／少子化社会における大学（教育）のあり方を問う

急速に進展するAI技術と、少子化による大学生人口の減少という二重の転換期において、私たち高等教育機関はどのように変化し、どのような価値を社会に提供していくべきなのか。ChatGPTをはじめとする生成AIの登場は、学びの形や知的生産のあり方に根本的な変化をもたらしている。一方、少子化に伴う大学経営の厳しさは、単なる生き残りを超えて、教育の本質を問い直す契機ともなり得る。今、問われているのは「何を教えるか」ではなく、「どのように問いを立て、学びを創造しうる環境を築くか」であり、そのための教育観・学習観・大学観の再設計が求められている。本シンポジウムでは、AI時代の大学での学びをテーマにした講演を3名のシンポジストからいただき、AIと共に思考し、問いを立て、新たな価値を生み出す教育の姿を構想する。その後のパネルディスカッションでは、大学教員・職員・学生を交え、生成AIと少子化社会という課題を教育イノベーションのチャンスと捉え、大学の未来像について対話を重ねる。

シンポジスト



石井 力重氏 アイデアブラント 代表／早稲田大学 非常勤講師

経歴

創造性研究者。早稲田大学非常勤講師、日本創造学会理事。商社・行政法人を経て2009年アイデアブラントを創業。3万人超の学生や社会人に創造研修やワークショップを提供し、某県公立高校校長会では探求学習でのアイデア創出授業法を講義。著書『AIを使って考えるための全技術』（ダイヤモンド社）はベストセラーとなり、教育現場や企業での創造性教育とAI活用を推進している。

主な活動、著書

『アイデア・スイッチ』（2009年）

『すごいプレスト』（2020年）

『AIを使って考えるための全技術』（2025年）

学会賞、みやぎものづくり大賞、など受賞多数。



安松 健氏 株式会社エボルブ Chief Assemblage Officer／大阪教育大学 理数情報教育系 特任准教授

経歴

2001年大手金融機関に入社、ニューラルネットワークを活用したシステムの運用・開発、顧客行動の分析を担当。その後、人材開発事業会社にて、マーケティング、財務などの問題解決型研修の企画・運営に従事。現在は、調査分析からコンセプトデザイン、AI設計・モデリングまでを担当し、新商品サービス／新規事業／AI開発、業務改革などの創造的協働プロジェクトをファシリテート。博士（経営科学）。

主な活動、著書

日本創造学会理事、産総研 人工知能技術コンソーシアム データ・知識融合WGリーダー、上智大学 応用データサイエンス学位プログラム、神戸大学非常勤講師

『BayoLinkSで実践するペイジアンネットワーク』オーム社（2023）共著



吉岡 太郎氏 株式会社HRD研究所 主席研究員

経歴

東京大学農学系大学院を修了後、ウィルソン・ラーニングワールドワイド株式会社にて、コンサルタントとして主にIT企業の若手早期戦力化、リーダー育成12ヶ月プログラムなど、長期育成プランの主幹デザインに携わる。2005年、株式会社HRD研究所の立ち上げよりR&D主席研究員として参画。

主な活動、著書

これまでに、東京大学（当時）中原淳研究室、早稲田大学向後千春研究室などの研究会に参加、企業での人材開発の知見を提供する。多くの企業内、ベンダーの人材開発の担当者にアカデミックな見地からの諸理論やデータを基礎知識として提供、ATD Taipeiでは、中原孝子氏とともにHPIの日本での実践知をもとにしたワークショップをファシリテーションする。『イノベーション指向技術者育成のためのアクティブラーニング活用に関する調査』『教員スキルとFD研修の体系化整備』などのレポート、『部下を育てるPDCA』シリーズ（同文館出版）『「問う力」が最強の思考ツールである』（フォレスト出版・監修）などの執筆多数。

コーディネーター



佐藤 賢一氏 京都産業大学生命科学部 教授／教育支援研究開発センター長／ハテナソノ共創ラボ 代表理事

経歴

1965年5月北海道岩見沢市生まれ。1991年3月、神戸大学大学院自然科学研究科物質科学専攻を中退。1991年4月、神戸大学遺伝子実験施設の助手に着任。1996年9月、博士（理学）号を取得。2007年4月に京都産業大学に異動し、同大学の教員として勤務。現在に至るまで卵細胞発生情報研究室を主宰し、教育・研究の両面から生命科学の探究に取り組んでいる。

主な活動、著書

分子発生学を専門とし、神戸大学在学時に「がん遺伝子産物Src（サーク）」の機能解析を通して研究を始め、現在は「脊椎動物における受精成立メカニズムの解明」に取り組んでいる。京都産業大学では教育や大学運営にも携わり、「自ら立てた問いを起点とする学び」の方法論と実践に関心を深めてきた。こうした流れが本シンポジウム企画の背景となっている。

第9分科会



定員 160名
(加盟校優先定員:100名)



講義形式

大学におけるアセスメントテスト (ジェネリックスキル測定テスト) の活用事例

各大学において、大学による個々の学生のジェネリックスキル(社会で求められる汎用能力)の測定・育成と、学生本人による学修の振り返りや成長の実感、強み・弱みの把握と能力伸長を目的として、アセスメントテストが実施されている。本分科会では、特徴的な取り組みを実施している大学の担当者から、アセスメントテスト実施・活用事例、学生の特性を把握したきめ細かな学修支援・キャリア支援への効果、授業力向上に対する効果、問題点などについて報告していただく。それらの事例を踏まえ、会場からのご意見もいただきながら、今後どのように実施効果を高めていくことができるのか、議論を深めたい。

コーディネーター

金子 貴昭氏 京都先端科学大学 人文学部 准教授

報告者

酒井 陽年氏 株式会社リアセック 教育事業グループ マネージャー

出口 貴大氏 共立女子大学・共立女子短期大学 キャリアセンター 職員

山本 博子氏 京都橘大学 教学事務部教務課 課長補佐

棕平 淳氏 大阪工業大学 工学部 教授

第10分科会



定員 160名
(加盟校優先定員:100名)



講義形式

大学職員の高度化と流動性 (職員の人材育成)

大学の業務が複雑化・高度化する中で、URAやUEAなど、教員と職員の間に立つ中間職人材のニーズの高まりや、職員から教員へのキャリアパスなど様々な変化が見られる。このことは、教員と職員という役割や職務を考え直す機会にもつながる。本分科会では、大学職員から大学教員に転身した人材に焦点を当て、自身の職務経験を踏まえた①キャリアチェンジのきっかけ、②職種が変わったことで見える大学の状況、③自身の研究と大学業務の関係性、④望ましい教職協働像などを多角的に語ってもらい、それを踏まえて類型パターンを紹介する。

コーディネーター

南 了太氏 京都精華大学 国際文化学部 准教授

報告者

村山 孝道氏 京都文教大学 総合社会学部 准教授

谷ノ内 識氏 大正大学 地域創生学部 教授

山咲 博昭氏 奈良女子大学 高等教育研究・支援センター 准教授

第11分科会



定員 30名
(加盟校優先定員:18名)



ワークショップ形式

高大連携をどう設計し、学生募集・入試・ 入学前／初年次教育等につなぐか ～連携・接続・移行の今とこれから～

近年、入試改革や探究学習必修化などを背景に、教育内容や学びの接続という観点から高大連携が重視されるようになり、各大学ではさまざまな取組が進められている。一方、それら取組を募集広報や接続・トランジション(移行)などの観点からどう設計し、どう実現していくかについては課題が多い。本分科会では、高大連携に関する先進事例や理論的背景に触れる。そのうえで、参加者同士のワークショップを通して、高大連携を学生募集や入試、入学前教育・初年次教育等につなげるかを考え、「自大学の課題解決につながるヒント」「教職員に求められるマインドやスキル」を持ち帰ることを目指す。

コーディネーター

井出 大地氏 京都文教大学 入学センター 高大連携オフィス 課長補佐

報告者

高原 幸治氏 桜美林大学 学長補佐／入学部 部長

山本 以和子氏 京都工芸繊維大学 工芸科学部 教授

第12分科会



定員 30名
(加盟校優先定員:18名)



ワークショップ形式

多様性配慮と障害学生支援

ユニバーサル段階を迎えた大学にはさまざまな背景をもつ学生が入学している。大学において多様な背景をもつ学生のプライバシーに配慮しつつ、どのように学生支援を行うのか、大学で組織的に実施しているところもあれば、教員の個々の判断にゆだねている大学もあるだろう。本ワークショップでは大学での事例を検討し、障がい学生の支援の情報共有を主たる目的とする。

コーディネーター

浅田 瞳氏 京都文教大学 臨床心理学部 准教授

奥畑 志帆氏 佛教大学 教育学部 准教授

報告者

林 雅清氏 京都文教大学 こども教育学部 教授

楠 敬太氏 佛教大学 学生支援センター 講師

申込方法

＋事前WEB申込

 <https://www.consortium.or.jp/project/fd/forum>

- 本フォーラムは事前申込制となっております。申込期間外およびフォーラム当日の参加申込受付は行っておりません。
- シンポジウム・分科会・ワークショップは事前申込制です。但し、同一時間帯の講義形式の分科会間での当日移動は可能です。ワークショップ形式の分科会については、進行の都合上プログラムの変更・移動はできません。
- 複数のシンポジウム・分科会にお申込みいただけますが、同一時間帯での複数のプログラムにはお申込みいただけません。



お申込みは
こちらから

step1 WEBからの申込み(先着順)

大学コンソーシアム京都WEBページよりお申込みください。

step2 申込完了メールの受信

申込手続き完了後、申込者に「申込完了メール」をお送りいたします。
※翌日になっても「申込完了メール」が届かない場合は、お問い合わせください。

step3 参加費のお支払い

【先行申込期間申込者の参加費支払期限：2026年1月21日(水)】

【一般受付期間申込者の参加費支払期限：2026年2月9日(月)】

申込手続き完了後、WEBサイト等をご確認の上、期限までに参加費をお支払いください。
※支払方法は、クレジットカードまたはコンビニ決済のみとなります。銀行振込はご利用いただけません。

step4 「事前配付資料・参加に関するご案内」メールの受信

参加費の支払手続きが完了した方へのみ、2月20日(金)以降、参加者欄記載のメールアドレスに以下の情報をお送りいたします。
・当日の参加に関するご案内
・特設WEBサイトへのログイン方法(事前配布資料は特設WEBサイトよりダウンロードしてください。当日の紙配布はありませんので、ご自身のデバイスにダウンロードいただくか、事前に印刷のうえご持参ください。)

step5 開催当日

当日、会場(同志社大学今出川キャンパス良心館)にお越しいただき、ご参加ください。
参加者の方は、当日受付にて「第31回FD・SDフォーラム参加者用マイページ」の画面またはプリントアウトをご提示ください。

資料配布

- 事前配布資料は、参加費の支払手続きが完了した方へお送りするメールに記載の「特設WEBサイト」よりダウンロードしてください。
当日の紙配布はありませんので、ご自身のデバイスにダウンロードいただくか、事前に印刷のうえご持参ください。

昼食・休憩場所について

構内の施設について

当日は、構内の食堂およびコンビニエンスストアは営業していません。
昼食は各自でご準備いただくか、近隣のレストランやコンビニエンスストア、あるいは、以下の弁当の申込みをご利用ください。

弁当の申込みについて

食堂の営業がないため、ご希望の方にはフォーラムのWEB申込時に限り、財団が協力を依頼した業者の弁当を事前にお申込みいただけます。
弁当の種類等はお選びいただけません。また、各種アレルギー対応もいたしかねますので、ご了承ください。
申込みは、フォーラムシンポジウム・分科会の申込ページ(オプション選択)からとなります。弁当代はWEBサイトをご参照ください。
WEBにて弁当申込後の追加申込み・変更・キャンセル・返金は一切お受けできません。フォーラム参加をキャンセル・欠席された場合も、ご返金はいたしかねますのでご了承の上、お申込みください。

会場での飲食および休憩場所について

シンポジウムおよび分科会の会場内での食事・休憩はご遠慮ください。昼食・休憩用に当日ご案内する所定の教室をご利用ください。

注意事項

- 学内には駐車場はございません。ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。
- シンポジウム・分科会の会場内では、携帯電話・スマートフォン等の電源をお切りいただくか、マナーモードに設定し、音が出ないように配慮ください。
- シンポジウムおよび分科会の会場内での食事・休憩はご遠慮ください。昼食・休憩用に開放している所定の教室をご利用ください。
- 昼食・休憩場所等の詳細は、上記「昼食・休憩場所について」をご参照ください。
- 建物内およびキャンパス内は禁煙です。
- 当日、Wi-Fi接続用のID・パスワードを配布します。eduroamの利用も可能です。
- 同志社大学今出川キャンパス周辺のご宿泊について
今出川キャンパス周辺は観光名所にも近く、特に観光シーズンには宿泊施設の確保が難しい場合がございます。
近年は2月、3月においても観光客が増加しておりますので、お早めに宿泊先をご手配くださいますようお願いいたします。

会場案内

アクセスマップ



京都市営地下鉄烏丸線

「今出川」駅から徒歩1分（地下鉄北改札口より直結入口あり）

京阪電車

「出町柳」駅から徒歩15分

最寄りのバス停

市バス「烏丸今出川」から徒歩1分

- 学内には駐車場がございません。
ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

キャンパスマップ



- シンポジウム・分科会・ポスターセッション会場は、すべて良心館です。
- 情報交換会会場は、「アマーク・ド・バラディ 寒梅館」（寒梅館1F）です。

申込期間

大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の方を対象に、**先行申込期間**を設けています。
先行申込期間中は、優先定員までの受付となります。

先行申込（加盟大学・短期大学限定） 2026.1.9(金) 10:00～1.15(木) 17:00（参加費支払期限：2026年1月21日(水)）

一般受付（すべての大学・短期大学） 2026.1.16(金) 10:00～2.4(水) 17:00（参加費支払期限：2026年2月9日(月)）

- 参加されるにあたり、障がい等により情報保障等の合理的配慮が必要な方は、1月30日(金)17時までにFD・SDフォーラム事務局までご連絡ください。
申し出に応じて、個別に相談のうえ対応させていただきます。

参加費について

所属	区分	参加費	情報交換会費
加盟 大学・短期大学	教職員	1,000円	4,000円
	学生（大学院生含）	無料	2,000円
非加盟 大学・短期大学 その他団体・企業等	教職員・一般	4,000円	4,000円
	学生（大学院生含）	無料	2,000円

- 開催中止の場合を除いては、理由の如何にかかわらず、参加費の払い戻しはいたしかねます。
- 申込手続き完了後は、申込内容の変更はできませんので、ご注意ください。
- 支払期限は、下記の通りです。
【先行申込期間申込者の参加費支払期限：2026年1月21日(水)】
【一般受付期間申込者の参加費支払期限：2026年2月9日(月)】
期日までに支払手続きが完了しない場合は、参加の意思が無いものと判断し、申込を無効とします。
- 所属・区分等の入力不備により、参加費を多く支払われても、返金できませんので、十分にご注意ください。
なお、参加費が不足している場合は、追って不足分を請求させていただきます。
- 領収書に記載される金額は参加費、情報交換会費（申込された方）、弁当代（申込された方）の合計金額となります。
個々の金額で領収書を分けることはできません。明細はリーフレットおよびWEBサイトをご参照ください。
- 学生（大学院生含）の参加者は、受付にて学生証の提示をお願いします。
- 開催当日時点で、二十歳未満の学生は、アルコール類を用意している関係から情報交換会に申し込みいただけません。
情報交換会に参加される学生は、学生証に記載されている生年月日を確認させていただきます。
学生証に生年月日の記載がない場合は、生年月日が確認できる公的書類（例：運転免許証、パスポート等）を併せてご提示ください。

お問い合わせ先



公益財団法人 大学コンソーシアム 京都
The Consortium of Universities in Kyoto
教育開発事業部 FD・SDフォーラム事務局

〒600-8216
京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内
☎ 075-353-9163 ☎ 075-353-9101
✉ fdf@consortium.or.jp
窓口受付時間：火曜～土曜 9:00～17:00（年末年始を除く）